

オーケストラ シンフォニカ 東京

第 38 回

定期演奏会

平成9年4月20日(日) 午後 2:00 開演

カザルスホール



プログラム

第 1 部

指揮：山本雅三

日本の四季

武藤理恵

行列

堀清隆

「天と地」～ランドテーマ

喜多郎
(編曲：山本雅三)

田園詩曲

平山英三郎

〔休憩〕

第 2 部

指揮：石黒不二夫

交響的前奏曲

U. ボッタキアリ

アンダルーザ

I. A. フィリオリーニ

交響譚詩・第一譚詩曲

伊福部 昭
(編曲：石村隆行)



曲 目 解 説



第 1 部

日本の四季

武藤理恵

季節ごとに色とりどりの表情を見せつつ移り変わる日本の四季。この美しい日本の四季をなつかしい唱歌のメドレーで表現しています。登場する曲目は、「春」・早春譜・花、「夏」・夏は来ぬ・茶摘み、「秋」・旅愁・里の秋、「冬」・雪の降る街を・ペチカ、以上8曲です。

編曲者の武藤理恵さんは桐朋学園大学出身で、声楽・器楽・合唱の伴奏ピアニストとして、又ご主人のマンドリンリスト青山忠氏の伴奏者として活躍中です。この編曲は青山氏が指導されている所沢のマンドリン合奏団「ラス マンドリーナス」の演奏会のために、1988年に書き下ろされたものです。

行 列

堀 清 隆 (1900 ~ 1986)

作者は昭和初期にOST(タケイ)に入り、キタローネ奏者・指揮者として活躍する傍ら20曲余りを作曲してOSTに新風を吹き込みました。

この曲は生れ故郷の京都を題材とした組曲「初夏に寄す」の第2楽章ですが、2拍子のリズムと日本調のメロディーが好まれて、屢々単独で演奏されております。毎年5月15日に行われる加茂神社の祭祀、加茂祭、別名葵(アオイ)祭の行列の情景を写した曲で、行列は牛車(ギョッシャ)に乗った公卿女官など平安時代の風俗絵巻の優雅華麗さを古式ゆかしく再現しております。

「天と地」～ランドテーマ

喜 多 郎 (1953 ~)

映画「天と地」は1993年、オリバー・ストーン監督によるワーナー・ブラザーズ(アメリカ)の作品です。1949年生れのベトナム女性、リーライ・ヘイスリップの2冊の回想録を基に作られました。田舎の農民の子として生れ、ベトナム戦争のさなか、南と北の両方の軍隊に迫害を受けながら、その苛酷な状況に耐えて生きぬき、やがてアメリカ兵と結婚し、アメリカに渡って新生活への挑戦を始めます。

物語は1986年にリーライが祖国へ感動の里帰りを果たし、自分の過去と未来を受け入れようとする所でクライマックスを迎えます。彼女は思います。「私はいつも中間にいた。南と北。平和と戦争。ベトナムとアメリカ。そして天と地。……」

この映画の音楽を担当した喜多郎は1953年愛知県豊橋市の出身。シンセサイザーを駆使し、1980年NHKの「シルクロード」のテーマ音楽で脚光を浴びました。1984年アジアツアー、1987年全米ツアー、1989年ヨーロッパツアーを敢行し成功を収め、1990年アルバム「古事記」がビルボード誌のニューエイジ・アルバム部門で、日本人アーティストとして初の8週連続第1位を獲得するなど、世界規模で活躍しています。尚「天と地」の音楽は第51回ゴールデングローブ賞・作曲賞を受賞。ランドテーマは映画の冒頭のタイトルバックに流れます。

田園詩曲

平 山 英三郎 (1911 ~)

平山氏はOSTの特別会員であり、又自らマンドリン合奏団「砧会」を主宰指揮するマンドリン界の重鎮です。明治44年青森県五所川原に生れ、早稲田大学マンドリン楽部で活躍。卒業後は「平山カルテット」を結成し、放送・レコード録音を中心に演奏活動を続けました。又一方では在京のマンドリンリストの懇談会「マンドリンの群れ」…後に発展的解消をし、現在の日本マンドリン連盟(JMU)につながる…をつくり、戦後は数多くの楽譜の出版、門下生・諸団体の指導など、楽界に多大な貢献をされております。昭和56年(1981)JMUより特別表彰。平成7年(1995)五所川原市文化功労賞を受賞。現JMU顧問。

この曲に寄せた作者のメッセージを次の通り紹介致します。

私の作品の中で、最もスケールの大きい曲です。私の持っている自然主義的な傾向は、私の故郷である津軽平野から来ているのですが、殊に秋の野山の朝焼け、夕焼けの美しさは、生涯の思い出となっています。

自然の持つ雄大さ、母なる大地の暖かさ、そして輝やく陽光の下に躍動する生命力の力強さ……それらが一つになって若い日の私の人生観を造り上げてくれました。そして又、輝やかな創造の蔭には滅び行く命の哀愁があることも教えてくれました。「田園詩曲」は、その様な私の人生観をマンドリンに託したものです。

「田園」と云う言葉には何かしら「豊かさ」と「安らかさ」というイメージがある様に思います。その「豊かさ」と「安らかさ」への讃歌として、この曲をお聞き下さい。

第 2 部

交響的前奏曲

U. ボッタキアリ (1879 ~ 1944)

ボッタキアリは1879年、イタリア中部 マチュエラータのカステル ライモンドに生れ、18才の時から作曲を始めましたが我流に飽き足らず、ベザロのロッシーニ音楽院でピエトロ マスカーニに師事して本格的な教育を受けました。1899年に処女作、歌劇「影」が上演されて一躍存在を認められ、その後数々の交響曲・管弦楽曲・室内楽曲・声楽曲を書き諸々のコンクールで入賞しております。一方マンドリンの為の合奏曲も数多く残し、何れも深い内容を持つ作品で、第1級の作家として認められております。

この曲は彼のマンドリン合奏曲の中でも、骨組みのしっかりした文字通り交響的構成を持つ大曲と言はれ、重厚な和音の動き、計算された曲の運び、加えて一つの主題が全曲の背骨として貫いていることで、線の太い曲という印象を深くさせます。又主題の提示とそれに続く転調は近代的手法を感じさせ、いわゆる「イタリアのマンドリン音楽」とは一線を画すことが出来ます。しかし彼が持つ甘い旋律の底に流れるものは、やはり イタリアのセンチメンタリズム であり、これを巧みに近代作曲技法と融和させたこの曲は、マンドリン音楽にとって貴重な存在であり、常に上演回数数のトップを争っておるのも当然のことと思われまます。

アンダルーザ

I.A. フィリオリーニ (1878 ~ 1955)

フィリオリーニについては明らかではありませんが、19世紀末から20世紀にかけて、イタリアでマンドリン音楽が全盛を極めていた時代に活躍した作曲家で、25曲ほどのマンドリン曲を後世に残しています。

「アンダルーザ」とはスペイン南部の平野アンダルシア地方の民族舞踏曲で、多くの作家が同じ題名で作曲しておりますが、この曲は3拍子のリズムに乗って美しいスペイン風の旋律が流れて来ます。

交響譚詩・第一譚詩曲

伊福部 昭 (1914 ~)

作者は大正3年釧路に生れ、小年期を未開墾の十勝原野の一寒村音更(オトフケ)で過ごしました。此処で聞いた彼にとっての最初の音楽は、土着の先住民アイヌの土俗楽と東北からの開拓移住者の民謡であり、彼等に密着して生活を共にしていた小年にとって、「民族が持つ固有の音楽」についての強烈な原体験となって心の奥底に焼きついたのです。

作者の音楽は、エキゾチック・日本的・土俗的・民族的などと言はれておりますが、その特徴は

PROGRAM

- (1) 特定の音で構成される民族的な旋法（音階）を基礎とし
- (2) バイタリティーに富んだ、日本的（アジア的）な小節（こぶし）を持った旋律（装飾的旋律）の豊かさ
- (3) 一定の音型（リズム・旋律）を何回も続けて執拗に反復して音楽的高揚感を作り出すオスティナート技法
- (4) 独自の楽曲展開手法と和声法、楽器の特質をつかんだオーケストレーション

などと評されております。

従って作品には土俗的エネルギーに満ちた雄大で、且素朴な叙情溢れるものが多くありますが、西欧至上主義の日本楽界よりは異端視され、容易に受け入れられませんでした。しかし1980年代から漸く見直され、注目を浴びてきています。尚映画「ゴジラ シリーズ」の音楽を担当して好評を博していることは、「知る人ぞ知る」のことです。

この曲は、夭逝した次兄のために書かれた二つの鎮魂の曲「交響譚詩」の内の第一譚詩曲ですが昭和18年（1943）に作曲され、同年9月ビクターの管弦楽懸賞で第1位となり文部大臣賞を受賞しています。尚、譚詩とはフランス語の Balade（バラード）のことで、古伝説や俗謡などを題材とした自由な形式の小叙事詩のこと。譚詩曲とは物語を暗示するような器楽作品のことです。

加除式法規書・法令解説書出版

中央法規出版株式会社

本社 〒151 東京都渋谷区代々木2-27-4 電話(3379)3861(代表)
営業所 札幌・仙台・岐阜・大阪・広島・福岡

山本ミュージックコーナー

〒164 中野区東中野1-43-7 JR東中野駅東口南下車3分 TEL(3363)9893

取扱品目

- ★ 手工マンドリン・ギター各種
- ★ 各社マンドリン・ギター
- ★ マンドリン・ギター用弦及附属品

お気軽にお立寄り下さい。

マンドリン教室

平山 英三郎 先生

ギター教室

平山 英三郎 先生

指 揮：*石 黒 不二夫 コンサートマスター：*肥 沼 成 明

：*山 本 雅 三

*本 間 輝 樹

第一マンドリン：肥 沼 成 明 新 居 裕 久 田 島 明 子 諸 井 美津江
本 間 輝 樹 秋 元 興 光 中 込 尚 子 城 戸 かほる
村 上 一 二 郎

第二マンドリン：*岡 田 茂 藤 田 正 美 坂 井 美 佐 子 宮 澤 栄 作
後 藤 俊 明 深 澤 秋 芳 山 崎 悦 子 土 屋 理 恵 子

マンドラ テノール：*岩 片 順 子 渡 辺 清 佐々木 興 治 ・滝 田 ふ さ 子
田 中 倭 文 子 玉 木 利 恵 子 石 井 啓 之 佐 藤 一 徳

ギ タ ー：*今 津 章 城 所 敏 雄 西 原 正 高 橋 貴 久 子
山 本 雅 三 宮 本 紀 子 高 橋 悠 介 平 田 陽 一
沢 田 行 雄

マ ン ド チ ュ ロ：鈴 木 功 宮 崎 泰 行 平 山 英 三 郎 ・梅 山 恵 美 子
・浮 田 一 朗

リ ュ ー ト ・ モ デ ル ノ：*宮 本 皓 永

マ ン ド ロ ー ネ：高 田 三 九 三 *家 城 孝 治

コ ン ト ラ バ ス：佐 藤 正 久 保 田 聡

フ ル ー ト：・比 護 い づ み

ク ラ リ ネ ッ ト：・佐 藤 路 世

ピ ア ノ：・浦 島 晶 子

〔 * ——— 役 員 〕
・ ——— 賛 助 出 演 〕

打 楽 器：・田 賀 浩 一 郎 ・伊 藤 優 ・斉 藤 愛

オルケストラ シンフォニカ 東京 (OST)

代表幹事 今 津 章

事務所：〒241 横浜市旭区中尾2-27-19 ☎045-363-1046